

東急 2020 系



鉄道ホビダス(rail.hobidas.com/rmn/archives/2017/12/2021f.html)より引用

1.東急 2020 系について

東京急行電鉄(以下：東急)2020 系は、現在東急田園都市線と田園都市線と相互直通運転をおこなっている東京地下鉄(東京メトロ)半蔵門線での運転を行っている車両です。

2.基本情報

2018 年 3 月下旬、東急が田園都市線向けに新型車両として導入されたのが「2020 系」です。

本車両は、老朽化が進む田園都市線の車両の置き換えなどを目的に製造されました。2020 系の「2020」というのには、2020 年に東京で開催が予定されている東京オリンピックに因んでつけられました。

田園都市線では大井町線直通列車を除きすべて 10 両編成で運転されています。そのため、この電車も 10 両編成で製造され、現在運用されています。運転区間は東急田園都市線および半蔵門線の中央林間～渋谷～押上間です。現在は東武伊勢崎線、日光線への直通は行われていません(後述)。

3.2020 系と 6020 系の違い



↑ 6020 系と 2020 系の並び。スカート部分の色が大井町線は路線のカラーであるオレンジ系の色に対し 2020 系は田園都市線の路線のカラーである緑系の色をしている。

乗り物ニュース(min-nori.trafficnews.jp/news/p_KQWBXDUM)より



2020 系の車内。6020 系と車内の多くは共通化された。

マイナビニュース(news.mynavi.jp/article/20180224-588866/)より引用

新型車両 2020 系と 6020 系はどちらも総合車両製作所の製造です。田園都市線用の 2020 系の 10 両編成は 3 編成、大井町線急行用の 6020 系の 7 両編成は 2 編成導入しました。

2020 系のデザインコンセプトは丹青社が担当しています。

外見はコンセプトカラー「INKUBATION」(美しい時代へと孵化していく色)を使っています。丸みを帯びたやわらかみのある顔をイメージした先頭形状を特徴としています。

2020 系と 6020 系の座席はどちらも背もたれの高いハイスペック仕様で、日常の通勤や、通学の少しでも安らぎや憩いを感じられる電車を目指しています。床面はフローリング調となっています。荷棚は低い位置へ変更され、荷物の積み下ろしを行いやすい形状にしています。車いすやベビーカー利用者に配慮したフリースペースを全車両に設置しました。車内のデジタルサイネージで多言語案内の充実を図るとともに、ニュースや天気予報などの情報サービスも提供しています。さらに、車内環境改善のため空気清浄機も設置されています。



2020 系の運転台

毎日新聞(mainichi.jp/graphs/20171130/hpj/00m/040/002000g/38)より引用

4.東武線直通に向けて

2018年7月20日に2020系2122編成が長津田車庫から半蔵門線と相互直通運転を実施している東武日光線の南栗橋車庫まで回送されました。現在は東武線直通不可をしめすKマークが取り付けられているため、田園都市線および東京メトロ半蔵門線のための運行となっていますが、東武鉄道線内での営業運転開始に向けて教育訓練のため貸し出されたものと思われます。

5.参考文献

東急2020系2122編成が南栗橋へ 鉄道ニュース 2018年7月21日掲載
railf.jp/news/2018/07/21/202500.html

東急電鉄2020系・6020系、違いは？ 新型車両を報道公開、写真103枚
news.mynavi.jp/article/20180224-588866/

東急田園都市線2020系、新たに6編成導入—7700系は全編成置換え！
news.mynavi.jp/article/20180511-629372/